HIKARI

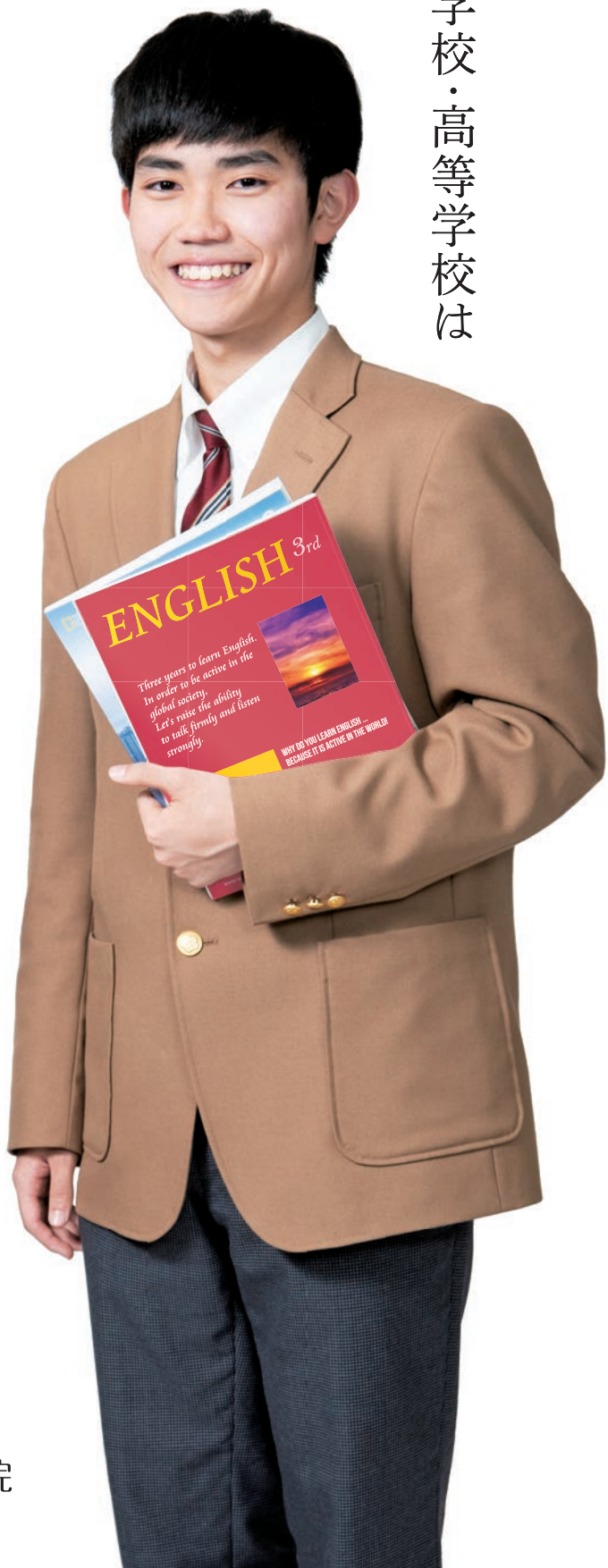
梅光学院 学院報

2018.12 / vol.3

中学校・高等学校特集

中学校・高等学校は

新しいステージへ。



梅光学院

一度の出会いで人生が変わる経験を生徒にも

只木（ただき） 徹（とおる）
統轄本部長 中高改革推進担当理事
英語教育・国際交流担当／英語科

英国マンチェスター大学大学院博士号取得。大学教授（英語教育学専攻）兼務。進学塾室長経験や予備校主任講師経験あり。梅光学院の英語教育に早期から4技能型を導入し、梅光学院独自のカリキュラムや教授法、テスト等を構築。
「自分の町を出て、日本を出て、世界に出て行こう。君の人生のチャンスが大きく広がるから―。」

たくさんの出会い、一度きりの出会い。
どちらも自分を成長させてくれる大切なものです。

人生の起点

大学生になるまで、まさか自分が英語の教員になるとは思っていませんでした。私は英語に苦手意識を持つ学生だったからです。
それが、大学で出会った尊敬する師によって大きく変えられたのです。
英語科教育法（英語で英語を教える授業）を担当する先生が、「只木は教師に向いている。教師になりなさい」とおっしゃったのです。私が通っていたのは、日本語と英語のバイリンガルの学生が多い大学。そんな中、「英語が使える」と「教えることができる」ことには、全く異なる才能と技能が必要なのだと教わりました。
しかし程なくして、この最高の理解者である師が亡くなったのです。私は生まれて初めて、お葬式で涙を流しました。人生に影響を与えてくださった恩師の存在が、あまりにも大きかったからです。
私も恩師のように、**生徒の人生**に微力ながらも**影響**を与えられる先生になりたい。そう思えるようになったのは恩師のおかげです。

良い影響を受けるために

人生は、**たった一度の出会いや経験**で劇的に変わります。だから、私たちは影響力のある人との出会い、未知の体験ができる場を用意し、留学や学校行事等によって**動機と意欲が持続する環境**を生徒に提供しています。意欲が湧かないということは、成長しないということと同義です。
今、本校では**Beyond the Borders**というスローガンを掲げています。自分の目の前にある境界線を越え、快適なゾーンから一歩踏み出す力を身につけてほしいという思いからです。そのために、私たちは全力で手助けをしていきます。
私たちは、**建学の精神**を受け継ぎ、他者のために尽くすことができる生徒を育てています。本校の教育プログラムの目的は、全てここに収れんします。
そのため、**建学の精神によって教育を受けた諸先輩方**のお力が必要です。ぜひそのお知恵とご経験を、**こうした教育の推進**のために拝借したいと思っています。

選ばれる名門校へ、復活の歩み

大木（おおぎ） 至（いたる）
教頭／国語科

早稲田大学教育学部卒。山口県立高森みどり中学校・高森高等学校を経て、山口県立下関中等教育学校校長へ就任。定年退職後、本校へ着任。専門は国語教育、キャリア教育・進路指導等。
「全員留学等の先進的プログラムに取り組む本校の教育課程等を改善し、生徒の自己実現を支援するため、進路指導を強化してまいります。」

本校の新たな試みと伝統的な教育で、自らの人生を切り拓く。

強みを持つ人材を育てるために

伝統ある名門校・梅光学院は今、新たに描く未来、そして「選ばれる学校」への復活を目指して歩み始めています。その歩みの内の一つが**進路指導の強化**です。それは、教育課程（カリキュラム）の充実による**速修進度計画**の確立です。具体的には、高校教育の内容を高校2年生までに学び終えるというものです。
そのため、2019年度からは**土曜日の授業**も導入します。これは、私立の中高一貫校にしかできない取り組みです。その上で、本校の強みである伝統的な**英語教育**、新たな**全員留学システム**、**大学との連携プログラム**で、世界的視野と自分の専門分野を持つ人材を育てます。

明確になる自分自身の未来

大学との連携プログラムとしては、中学校段階からの**大学訪問**や大学教授等による出張講義、さらに高校1年生から2年生にかけて取り組む**卒業研究**があります。
大学の先生とテーマを決め、面談とメールによる指導を受けながら論文にまとめます。これを経験することで、大学に入ってからの大きな成長が期待でき、**自らの人生を切り拓く力**が身につきます。
それによって、大学で学びたいことが明確になり、主体的に学ぶ姿勢と困難を突破する力が育ちます。

名門校の復活に向けて

私たちは、これからの新しいグローバルな時代を生き抜く人材を育成する必要があります。それができるのは卒業生の皆さんが育んだ英語教育とキリスト教教育の伝統があるからこそです。
すべての生徒に対して、国公立大、難関私立大に進学できるよう支援します。**進学実績**こそ、最大の学校評価。これは、梅光学院が「選ばれる学校」として復活するための第一歩です。
私たちは、生徒の人間性とともに学力面においても、名門校の復活を目指しています。

わずか3週間で見違える英語力

中川 勝彦（なかがわ かつひこ）
副校長／英語科

神戸大学教育学部卒。1989年から27年の間、宇部高等学校等で教諭として勤務。半年間の海外研修や中央研修、県外校派遣も経験。山口県優秀教員表彰（学習指導英語）。
「実用・受験の両面に使える英語力を、生徒の活動を中心とした楽しい授業で育んでいきます。英語を使ってコミュニケーションを楽しみましょう。」

反抗期が突如終わりました！

たった3週間で一段と大きく成長しました！

今年度から始まったWake-Up全員留学に参加した生徒の保護者の声です。
入学直後の全員留学が確実に成果を上げはじめています。

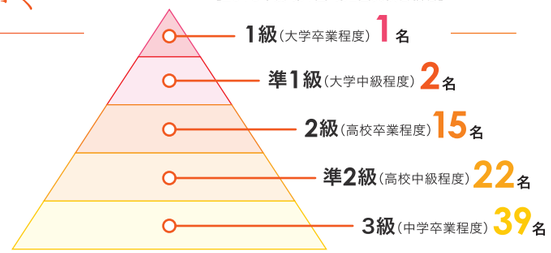
ネイティブな英語を学ぶ

高校1年生の留学先では、**1対1授業**等、朝から晩まで英語のレッスンを受け、掃除や下着の洗濯は自分でしなければなりません。海外で受ける刺激は大きく、留学する前と後では、英語力と学びを深めていきたいという**推進力**がまるで違ってきます。
多くの進学校で行われている教育という名の「大学入試の準備」、入試ありきの高校教育とは異なります。

生徒は常に、上のレベルを目指していく

留学という体験が生徒に与えるインパクトは大きく、**英検の合格率**にも影響しています。
2018年度第1回・第2回英検で、**英検1級に1人**（大卒程度）、**準1級に2人**（大学中級程度）、**2級には15人**（高卒程度）がすでに合格しています。今年度はあと1回試験があるため、まだ合格者が増えると信じています。

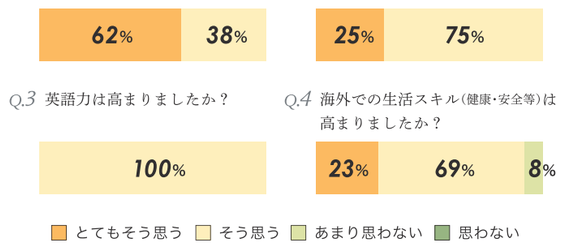
［2018年度 第1回・第2回英検合格者］



海外へと目を向ける

今の高校1年生が大学受験をする年に、**新大学入試**が始まります。これに伴い、英検をはじめとした外部の英語試験が重視され、**英検2級の合格**が受験成功の前提になっていくでしょう。
私たちは、**英語は話せて当たり前**という時代に生きていることを、自覚しなければなりません。
いずれは、本校から海外大学へ進学する生徒も増えていくと思っています。

「Wake-Up全員留学」アンケート



［中学1年生生徒・保護者アンケート］

[ICT教育] **重村 雄太**先生

ICT教育を今、導入する理由とは

重村（しげむら） 雄太（ゆうた）
校長補佐／社会科
ICT教育導入責任者

立教大学経済学部卒。学生時代から塾講師を経験し、大手IT系企業に就職。その後、本校に着任してから企業での経験を活かし、ICT教育を推進中。
「授業では毎回ICTを効率よく活用し、生徒と討論をしながら”知的好奇心“を刺激する授業を行っています。自分自身で考え、答えを導き出せる授業作りを心掛けています。」

実は、今の生徒たちをうらやましく思っています。

ICT（情報通信技術）教育の導入によって、効率的で習熟度の高い授業が受けられるようになったからです。

Point.1 ▸ 学びの場に、新しい文房具の登場！

生徒は一人一台ずつ**iPad**（タブレット端末）を持ち、画面に映し出される教材を見て、ノートのように書き込みながら学びます。
iPadは授業中の板書やプリント等の配布時間を短縮し、学習の効率を飛躍的に上げてくれる**新しい文房具**です。使う道具が違うだけで、昔も今も学びの本質に変わりはありません。
変わったのは授業のスピードと密度の高さ、生徒たちの習熟度なのです。

iPadは教師を含むクラス全員とネットワークでつながっており、席に着いたまま学んだ内容を共有できます。そのため、生徒一人ひとりの理解度をリアルタイムで確認でき、きめ細やかな指導が可能となります。

iPad用の
Apple Pencilの
導入も考えています。

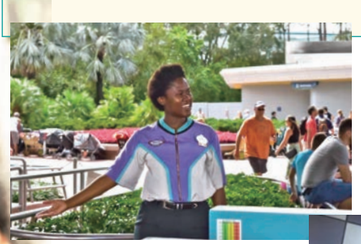
Point.2 ▸ 新しい取り組みで、他校と差をつける！

また、**e-Portfolio**（eポートフォリオ）の仕組みが、2019年度の大学入試から段階的に活用されることが決まっています。
これは、生徒一人ひとりの高校生活を記録し、常に振り返りながら**自己成長を目指す日記**のようなシステムです。改善点を見つけ出して失敗を成功に変える力が付き、問題解決能力を育てます。
多くの高校が今やっとその導入準備に入ろうとしている中、本校ではそのシステムはすでに導入済み。**全国でも先進的な取り組み**と言えるでしょう。

グローバル化が進み、変化が激しい時代です。生徒の将来の幸せを第一に考え、必要であれば新しいものをいち早く導入する。教師も学校も、**変わる勇気**を持たなくてはならないと考えています。

生徒にとって、
何が一番良いかを
常に考えています。

私がここで経営者を目指す訳



DISNEY INTERNSHIP

university student
INTERVIEW.01

ヌバヌギ ジャネット
Nvanungi Janet

ウガンダ出身
文学部人文学科
国際ビジネスコミュニケーション専攻 在籍

梅光学院大学に入学を決めた理由はありますか？

実は、日本語は梅光学院で学び、経営者になるために必要なことは、他の学校で学ぼうと考えていました。
ところが、梅光学院大学に入学してみると、**CEO（最高経営責任者）**になるために必要なことは、ここでしっかり学べることを知りました。

将来の夢は何ですか？

私の夢は、故郷であるウガンダの人たちに**仕事を与えられる**ようになることです。
ウガンダには、学校を卒業して働きたいと思っても、職に就くことができない人がたくさんいます。彼らに仕事を与えられるようになるためには、私自身が経営者になるのが近道だと考えたのです。
卒業後は貿易関係、またはコンサルティング会社に就職し、将来**日本とウガンダをつなぐ会社をつくりたい**と思っています。

Disney Internshipでの体験談を聞かせてください！

先生方に「経営者になりたい」と相談したところ、フロリダ州の**ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートでのインターンシップ**を勧められました。
ここで5カ月間、現場で実践することでリーダーシップ、マネジメント、ホスピタリティなどを学び、スキルを身に付けました。
さらに、アメリカ人、中国人、デンマーク人、スロバキア人など、国境を越えた仲間ができました。

最後に一言どうぞ！

私には他の学校をいくつも訪問した経験がありますが、梅光学院ほど**親切に相談に乗っていただけた学校**はありません。例えば、私の弱み克服のために先生が1対1で面倒を見てくださったのはこの学校だけです。
さらに、この学校のいいところは、**海外に留学しても単位が取れる**ことです。普通の大学では、なかなかこうはいきません。海外に出て活躍したい方は、梅光学院を選んでほしいと思います。

教員になるために海外で見ておきたいこと

TEACHING ASSISTANT

university student
INTERVIEW.02

きのした けんたろう
木下 健太朗

山口県出身
子ども学部子ども未来学科
児童教育専攻 在籍

将来の夢は何ですか？

私の夢は、電気が通っていないような発展途上国で**青空授業**をする教員になることです。
教員として働く場は、国内にこだわる必要はないと考えるようになりました。これには理由があります。

夢を目指す理由は何でしょうか？

私はバックパッカーとして、タイやフィリピンなど東南アジアを中心に、現地の方から温かい支援を受けながら旅をしてきました。
このご恩に報いるのに、私ができることは「**教育**」。教育を受けたくても、受けられない子どもたちの姿を見て来たからです。
恩を直接返すことは難しくても、**恩を「送っていく」**ことはできるはず。恩の送り先は、国内でも東南アジアであっても良いと思うのです。

夏季海外研修でのTA体験のことを聞かせてください！

海外を見聞した経験が評価されたのでしょうか、2018年7月、学校から**ティーチング・アシスタント**※として、1年生のフィリピン留学の引率を任されました。
この時、初めて人を動かすことの難しさを知るのですが、これは正に教育実習。勝手の違う海外なだけに困難が伴いましたが、相手の存在を認めたり、ほめたりしてあげなければ、耳を傾けてすらくれないことを学びました。

最後に一言どうぞ！

今回の留学では、ゴミ山での収集を生活の糧にしている子どもたちの姿に深く考えさせられました。
私たちは、**もっと海外を見るべき**かもしれません。
世界の貧困を知る教員とそうでない教員とでは、生徒に与える影響力が違ってくると思うからです。
海外に行くチャンスを与え、気持ちよく背中を押してくれる梅光学院大学に入学してよかったと思っています。

※ティーチング・アシスタント：学生に教育助手や教育補助業務を行わせることにより、大学教育の充実を図ると共に、教育トレーニングの機会を提供するもの。

Special interview
Drama Education

正解のない時代を生きるために教えていること。

今の時代、
どこに行っても人間関係の悩みから
逃れることはできません。
しかし、
自分で現状を楽しく変えることができ、
楽に人とつながる能力を
身に付けることができるとしたら、
どうでしょうか？

大塚（おおつか） 恵美子（えみこ）先生　英語科 ドラマ・ティーチャー

梅光学院中学校・高等学校専任教諭、梅光学院大学非常勤講師。劇団「大猫座(おおねこざ)」座長、劇作家、演出家。
北九州大学大学院卒業後、劇団「夢の工場」に入団、1991年に代表就任。北九州市民文化賞奨励賞を受賞後、大猫座を立ち上げた。2000年から表現教育を学び、希少な「ドラマ・ティーチャー」として、演劇手法を使った自己表現の講座を全国で展開。

私は、演劇の手法を通して コミュニケーション能力や主体性を学ぶ ”ドラマ・エデュケーション“を 指導しています。

生徒たちはこの擬似体験を通して人間関係のアンテナを磨き、社会で経験する悩みに**正面から向き合える**ようになります。ヨーロッパやアジアでは一般的な授業ですが、通年で正式な科目として学べるのは、国内では梅光学院中学校・高等学校だけでしょう。
誰もが同じ「正解」を出す力が、これまでの教育では重視されてきました。
しかし、これからの社会、**自分で正解を作り出すこと**も求められます。

だから、私たちはあえて ”回り道“ があり、その先には別の答えがあることを 教えています。

正解がないことに対して、人は自ら限界を決めてしまう傾向にありますが、生徒たちはドラマ・エデュケーションを通して、**経験のないこと、答えのないことに対して積極的に取り組める**ように成長しています。
そして、この成長とは、単に「大人になる」ということではありません。
グローバル化が進む世界で、多種多様な人たちとの複雑な人間関係の中で生きていく、新しい力を身に付けるということなのだと思います。

国際社会で活躍する卒業生が懐かしいあの頃を語ります。

India

坂田（さかた） マルハン 美穂（みほ）さん ／ 梅光女学院大学 文学部日本文学科 1987年度卒業

日本とインドを結ぶ仕事をする傍ら、NGOを主宰し、社会貢献活動を行っています。

進路を決めた出来事は何ですか？

大学2年次の夏、**ロサンゼルスでの1カ月のホームステイ**が人生の転機です。「物事の尺度は、日本と海外では異なる」ということを身をもって経験し、コペルニクス的転回ともいうべく、それまでの価値観が変化しました。

高校の国語教師を目指して梅光女学院（当時）の日本文学科に入学したのですが、**海外に出る機会がある仕事に就きたい**と切望するようになったのです。

PROFILE

大学を卒業後、上京。海外旅行誌などを制作する編集プロダクションに就職。その後、広告代理店を経てフリーランスのライター兼編集者に。30歳の時、1年の語学留学予定でニューヨークに渡るが、日本に帰国することなくマンハッタンで出版社を起業。その後、インド人男性と出会って結婚。ワシントンDC、カリフォルニアでの生活を経て、40歳でインドのバンガロールに移住。現在は、ライター、レポーターはじめ、インド関連のセミナーなど日印を結ぶ仕事に関わる。プライベートではNGO「Muse Creation」を主宰し、バンガロール在留邦人の有志と共に社会貢献活動を行う。

記憶に残る出合いはありましたか？

在学中に読んだ夏目漱石の小説『**三四郎**』に登場する男の「日本より、頭の中の方が広いでしょう」「**囚われちゃ駄目だ**」という言葉に衝撃を受けました。ロサンゼルスでの自身の経験と重なったからです。大学時代の経験は全てが糧。多くの書物を読み、知識を吸収したのも大学時代でした。

大学3年次に大学祭実行委員長を務め、従来の在り方に「囚われない」**画期的なイベントを企画・実施**したことは、その後の人生に多大な影響を与えました。

学生のみなさんに一言！

極東の島国という地理的条件も影響して、日本社会はドメスティックな志向に偏りやすいと思います。しかし、これからは今以上に、**世界に開かれた澄んだ目を持つこと**が重要です。特に若い人たちには、多様な価値観を理解する柔軟性のある精神が望まれるでしょう。

現在の梅光学院では、学生の大半が海外留学をする機会を得ていると聞き、強く感銘を受けました。**社会へ出る前に、日本を客観的に見る機会を得られることは極めて幸運**です。

異国の友と語り合い、互いの考えを共有する時間は宝。遥かな地平に思いを馳せながら、大学生活をどうぞ有意義に過ごしてください。

Philippines

松島（まつしま） 駿毅（しゅんき）さん ／ 梅光学院大学 子ども学部子ども未来学科 2015年度卒業

フィリピンのセブ島で起業し、ビジネスを展開しています。

留学での思い出はありますか？

わずか1カ月の留学で、人生でやりたいことを見つけることができました。私が今、セブ島で起業してビジネスを展開しているのは、大学3年次にここへ短期留学したことがきっかけになっています。

梅光学院の留学プログラムでは、英語力だけではなく、その国の人たちの**人間性**、**国際性**、**異文化を理解する力**も養います。

フィリピンの人たちの生活に触れるうちに彼らが大好きになり、何かの役に立ちたいと思うようになりました。それと同時に、いろいろな生き方があることを彼らから学び取りました。

どんなビジネスを展開していますか？

私は、雇用を生み出し、フィリピンの人たちを喜ばせたいと考え、アニメやコスプレの要素を取り入れた「kawaii cafe」をオープン。

内閣府の資料※の中で、日本のアニメやコスプレは、**クールジャパン関連分野の一つ**に位置付けられています。そして、国のクールジャパン戦略の一翼を担いたいという気持ちもあり、このようなビジネスを始めました。

※内閣府の資料：「国のクールジャパン戦略の最新状況」～クールジャパンを活かした地域づくり～（平成30年3月1日update）

学生のみなさんに一言！

セブ島は生活費が安く、**若い経営者が挑戦する**にはもってこいの場所です。私はカフェだけではなく、**旅行業**もスタートさせて、貸し切りのプライベートツアーに特化したサービスを提供しています。

学生時代は「教育」を専攻し、子どもが自発的に学習し、行動を起こすように導くことを学びました。そのことが、経営者となった今に生きていると実感しています。

好きな国に住み、好きな仕事をする。**梅光学院の留学プログラムに参加**したからこそ、自分の夢を見つけ、実現することができたのだと思います。

PROFILE

福岡県出身。2015年度梅光学院大学子ども学部卒業。大学在学中、タイでのボランティア実習、フィリピン・セブ島の語学留学を経験。この経験がきっかけとなり、フィリピン貧困層の支援を志すとともに、英語でのコミュニケーション力の必要性を学ぶ。大学卒業後はフィリピンを拠点として起業。フィリピンの貧困層の子どもたちの自立、経済的支援に力を注いでいる。

発行:学校法人梅光学院
〒750-8511 山口県下関市向洋町1-1-1 TEL.083-227-1000

後輩の未来のためのご寄附にご協力ください。

ごあいさつ

樋口（ひぐち） 紀子（のりこ） 梅光学院 学院長

皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。
梅光学院では、2017年より生徒・学生の活動支援の拡充を目指して募金活動を開始致しました。特に昨年は、梅光学院大学開学50年を記念として多くのご寄附を賜りました。ご支援賜りました皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。本学の募金活動は、国内外での生徒・学生の教育、学習及び生活に関する支援の充実を図る事業等を対象とさせていただくものであり、これらの事業を通じて、地域、そして世界で活躍できる人財の育成に努めてまいります。本学の意をご賢察くださり、募金活動にご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

事業概要

募金名称： 梅光学院大学 新校舎建設及び学内整備募金
募金目的： 梅光学院大学新校舎建設及びそれに伴う施設・設備の充実に資する資金調達のため
募金目標額： 1億円
募集期間： 2018年4月1日から2021年3月31日まで

主な募金事業（予定）

皆様からのご寄附は、新しい学習空間を持つ3階建ての**新校舎建設**、**本館整備**、**セントラルパーク（仮称）の整備**等、大学・大学院における学内施設や設備の充実に充てさせていただきます。

募集要領

本募金は**本学ホームページ（以下HPと称する）**、又は同封しております**払込用紙**から行っていただけます。
下記お申し込み方法等ご確認の上、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

1 寄附金金額・申込方法

[個人] 1口 3,000円以上（千円単位）
[法人] 1口 20,000円以上（千円単位）
[HPの場合] 本学HP内の、「新校舎建設等学内整備募金」→「寄附金申込フォーム」から、お申込みください。

2 払込方法

[HPの場合] 本学HP内の、「新校舎建設等学内整備募金」より可能です。
（※但し、**クレジットカード決済のみ**となります。）
[銀行振込の場合] 本学院報に同封しております払込用紙をご使用ください。また、事前にHP内の「お問い合わせ・払込用紙請求 申込フォーム」にご入力いただける場合は、払込用紙への詳細情報の記入の一部を省略することが可能です。
（※詳細は、本学HP内の「新校舎建設等学内整備募金」をご覧ください。）

3 寄附金の免税措置

本ご寄附につきましては、個人・法人それぞれ税制上の**優遇措置**を受けることができます。
ご入金の確認ができた時点で、**寄附金控除証明書**及び**領収書**を発行いたしますので、所得税の確定申告の際にご利用ください。
[法人の場合] 法人税法第37条第3項第2号により、寄付金の全額を損金として算入できます。
[個人の場合] 個人が行った寄附金については、「寄附金控除」の制度が設けられています。
確定申告の際、「税額控除」と「所得控除」のうち、いずれか一方の制度を選択し、適用を受けることができます。

※詳しくは文部科学省のホームページ「寄附金関係の税制について」をご確認ください。

寄附者の顕彰について

ご寄附を頂いた方については、寄附者の**ご芳名・寄附金額**を本学広報誌等に掲載し、公表させていただく場合もございます。
お差し障りがございましたら、お手数ですが下記お問合わせ先までご連絡をお願い致します。

募金に関するお問合わせ：梅光学院 財務部
[TEL] (083) 227-1001 [FAX] (083) 227-1081

その他、大学生の学生生活をサポートする「**梅光学院大学学生サポート募金**」、中高生の生徒活動をサポートする「**梅光学院中学校・高等学校生徒活動サポート募金**」もございます。
詳しくは下記URL、もしくはQRコードより、ウェブサイトをご覧ください。

[URL]https://www.baiko.ac.jp/donation/

編集後記

本間（ほんま） 政雄（まさお） 学校法人 梅光学院 理事長

内容を刷新したHIKARIの第3号をお届けします。学院の現状と未来について、卒業生の皆様を始め、在学・在園生と保護者の皆様、そして広く学院にご支援を頂いている方々に、学院から最新の情報を届けたいとの思いで、編集スタッフ一同頑張っています。
本号では、梅光学院中学校・高等学校を特集しています。今年度から始まった、入学直後全員が参加するWake-Up全員留学や、これからの情報化社会をたくましく生き抜くうえで必須のスキルを育成するICT活用教育などを紹介しました。中学校・高等学校は、少子化の影響などで生徒募集が必ずしも順調とは言えませんが、こうした地道な取り組みが必ず評価され、名門校として復活すると確信しています。
皆様方のご理解、ご支援をお願いします！